



## ゆれておどりたい

2024/5/15

No.13

岩渕和信

くどうなおこさく  
工藤直子作『ふきのとう』をよんでいます。

せんせい と  
先生が問います。「竹やぶくんたちのねがいはなんなの？」

の？」

「ゆれておどりたい」

「願いは、ゆれておどりたい？」せんせい と かえ  
た。するとほかの子が話します。

はるかぜ き  
「春風が来て、ゆれておどりたい」

「春風？」また先生は問い返します。するとまたほかの子が話します。



「春風が吹いたら、こっちにいたり、あっちにいたり、ゆらゆらするからおどれるけど、まだ春風が『んー？』とかしてるから、まだおどれない」

だんだんと、じぶん ことば せつめい  
自分の言葉で説明するようになっていきます。  
春風が「んー？」とかしてる、という表現には彼女の仕草がついていました。

ここで「竹やぶの願いは春風なの？」と先生はさらに問い返します。すると、またほかの子が話します。

「春風が来て、竹に、えー、竹に、当たって、で揺れておどる」彼はちょっと考えたあと「当たって」という言葉を見つけてその様子表現しました。「当たって」という言葉が思いつく前にちょっと戸惑いがある、いっしゆん みけん あらわ  
一瞬の思考が眉間に現れました。「当たって」という言葉が出たあとは、いってん あんしん ひょうじょう  
一転、安心した表情になってすらすらと「で揺れておどる」と言い切りました。

こうして、受けとってくれる人がいるから言葉が必要になります。

子供が本を読んだあとに、よく読み終えたねと褒めてあげるよりは、

その本の内容について真面目な問いかけをするほうがよい。(アマンダ・リプリー)